

2015年 中野地区クリニック

イトーヨーカドー食品館、西友、ライフ

城取フードサービス研究所

城取 博幸

イトーヨーカドー食品館中野店

「コンビニ化するスーパーマーケット」「スーパーマーケット化するコンビニ」

イトーヨーカドー食品館中野店は、中野駅近くの商店街ビル地下に300坪で出店している。

惣菜売場の印象は、セブンプレミアム中心に、セブンイレブンの商品が多く導入されているということだ。今までのイトーヨーカドー食品館は、インスタ比率が高い印象があったが、この店は、「新しいチルド」などコンビニ商品のコーナーを確立。ミニ弁当などコンビニの売れ筋商品も導入している。また、惣菜売場近くの多段ケースの「ミール・ソリューションコーナー」には、惣菜だけでなく生鮮3部門や日配の即食商品やレディ・ミールをまとめて陳列するという新しい試みも行っている。惣菜のアウトパック比率を高めただけでなく、インスタ製造の「ベジプレートコーナー」や「ごはんとおかずコーナー」などコンビニではできない新カテゴリーを設けている。「コンビニとスーパーマーケットの融合」を図っているように見える。「スーパーマーケット+コンビニ」は、今まで出来そうできてできなかったが、売場、品揃えが実現しつつある。進化型の都市型小型スーパーマーケットの惣菜部門の姿が見えてきた。

店の見方ガイド

中野駅前地区の「イトーヨーカ堂 食品館」、「西友」、「ライフ」と都市型小型スーパーマーケットの3店舗をストア・コンパゾンすることで、今後の惣菜部門の方向性が見えてくる。今回のイトーヨーカドー「食品館」の出店で、惣菜部門が前に比べてどう変わったのか、どう進化しているか、イトーヨーカドー食品館に対して「西友」「ライフ」はどう戦っているかを見ぬくことがポイント。

「ココを必ず押さえよ！ 評価の基準5ポイント」

1. ゾーンニング、レイアウト、商品構成の変化を見よ！

ヨーカドー食品館のゾーンニングとレイアウトは、壁面売場は、動線に沿って「寿司」「米飯」「ベジプレート」セブンプレミアムの「新しいチルド16アイテム」。健康をテーマにした弁当コーナーの新設と「新しいチルド」のコーナーが拡大された印象である。中央には非冷の平台を2台設置。手前は、ご飯とおかずを組み合わせることができる「ご飯&おかずコーナー」。これも新しい取り組み。奥の平台は揚物、やきとり、おにぎりなどのバラ販売。さらに、近くの多段ケースには、チルドのサラダや煮物、サンドイッチ、生野菜サラダ、煮魚、焼き魚、ローストビーフ、生ハム、チルドのレディ・ミールなど各部門の商品を集めた「ミール・ソリューションコーナー」が新設されている。「西友」は低価格販売だけでなく、揚物類売場を広く確保。ラ

ライフはコンパクトな売場で、増設の平台をうまく活用して店内製造の商品が充実しているが、両店とも新しい取り組みはあまり見られなかった。

2. インストア製造商品とアウトパック製造商品の比率を見よ！

イトーヨーカドー食品館は、今までインストア比率が高い店という印象を持っていたが、この店は、「セブンイレブンの商品」に、コンビニではできない、インストア惣菜、米飯をプラスした品揃えである。「コンビニ商品+SM惣菜」でコンビニの客とSMの客の両方を取り組もうとしている狙いがある。主なアウトパック商品は、生のネタ以外の寿司、ミニ弁当、牛飯などの「重」、「丼類」。常温保存可能なおかず、チルド商品など。「西友」は、インストア製造米飯とアウト製造の米飯類の比率はほぼ同じ、天ぷら、揚物類はインストア製造、寿司のインストア比率も高い。「ライフ」は、寿司、米飯のインストア比率が一番高かった印象である。サラダ、煮物などのチルド商品は、3店舗全てアウトパック商品であった。

3. 「賞味期限」の違いを見よ！

ヨーカドー食品館で一番注目したのは、丼を中心にした「新しいチルド」の「賞味期限」である。1月18日に商品を購入したとしても、賞味期限は最大で21日(午前3時)までである。一方、西友(若菜)のアウトパックの弁当の賞味期限は、翌19日の午前1時までである。もちろん、丼類と弁当の違いはあるが、賞味期限の違いは、商品の陳列量、値引きロスに大きく影響する。「新しいチルド」の売場は、商品がぎっしりと詰まれているボリュームがある。しかも、値引きシールは1枚も貼られていない。ただ、インストアの「カツ重」がなかったため、聞いてみると「今はありません」との返事であったが、チルドコーナーにはしっかりと「カツ重」の品揃えはある。温度帯は違っても「まず、商品があること」が重要である。また、ヨーカドーや西友の賞味期限の表示も、午前1時、午前3時など日をまたいで表示することで、賞味期限が長い印象を与える。

4. 「新しい取り組み」を見よ！

スーパーマーケットの惣菜は、コンビニの惣菜と競合しているが、今回のイトーヨーカドー食品館を見ることで、スーパーマーケットのコンビニ対策が見えてくる。「コンビニ+スーパーマーケット」の惣菜売場で、何を切り捨て、何を加えたかをしっかりとチェックすれば、コンビニ対策の答えが見えてくる。コンビニ商品を売場に取り込んで、コンビニには品揃えできないインストア惣菜をプラスする。後はお客の反応を見る。コンビニ商品が支持されれば売場、品揃えの拡大、インストア惣菜が支持されれば、売場、品揃えを拡大すればよいのだ。答えはお客が出してくれる。「西友」のコンビニでは実現できない圧倒的な低価格戦略、「ライフ」のインストア比率を高めた売場もコンビニ対策にはなっている。

5. 「売り方の進化」「商品の進化」を見よ！

「ライフ」の寿司コーナーでは、1月18日（日）に、「節分の恵方巻き」の先取りセールを行っていた。「七福開運」「海鮮」「マグロ」「サーモン」「ツナサラダ」「サバ」を1本360円で販売。ヨーカドー食品館もアウトの「恵方巻き」を販売していたが、ライフほどの迫力はない。「商品の進化」で注目したのは、ヨーカドーの「常温保存可能」のおかず類である。「麻婆豆腐」「ハンバーグセット」「鶏唐揚げと野菜の黒酢あん」などの「S-D e r i」シリーズが、アウトパック商品でありながら、平台の「ごはん&おかずコーナー」で販売されている点。ここでも、全てインスタ製造に頼らずとも、アウトパック商品でも平台に陳列することが可能になった。

注目商品

八品目の恵方巻 1本 298円（税込）

恵方巻きのハーフサイズ。パリパリおにぎりと同じように、シャリと海苔が分かれているタイプ。海苔はパリパリで香りもよい。具とシャリのバランスもよい。



S-D e r i 「ベジプレート（生姜チキン） 雑穀米」 500円（税込）

雑穀米とたっぷりの野菜、鶏肉、モッツアレラチーズを盛り合わせた「健康弁当」野菜をたっぷり使い栄養バランスを考えたプレート。チーズが入っているのも珍しい。しっかりと噛んで時間をかけて食べたい商品。



S-Deli 「うま辛! 麻婆豆腐」 345円(税込)

賞味期限 1月19日(午前1時) 18日購入 常温保存(直射日光や高温多湿を避けてください) 可能な商品。「ご飯&おかずコーナー」で売られている商品。商品の進化で豆腐惣菜が常温で売れるようになった。プラス1品のおかずとしては十分な商品。



「雑穀ごはん」 100g 103円(税込)

賞味期限 19日0時(18日購入) 「ご飯&おかずコーナー」の雑穀ごはん。家庭で雑穀米を炊くのは好みが分かれて大変だが、100g 103円と手ごろな価格。雑穀米を食べる層はあまり量はいらない。これくらいが適量。



「ゴロッと蒸し野菜サラダ」 213円（税込）

賞味期限 1月20日（午前3時）18日購入 青果売場のカット野菜よりも安い蒸し野菜。

「赤緑黄野菜」がバランスよく盛り合わされている。ドレッシングはセットされていないが、これで213円は安い。蒸し野菜も買いやすい価格になってきた。これも商品の進化。



惣菜の主力商品の最低価格

	イトーヨーカドー 食品館 中野店	西友 中野店	ライフ 中野店
コロッケ	1個 112円	1個 47円	1個 122円
豚ロースとんかつ	1枚 298円（特 売）	1枚 360円	1枚 398円
野菜かき揚げ	1枚 121円	1枚 131円	1枚 160円（エビ入 り）
鶏唐揚げ	100g 188円	3個 150円	100g 158円（特売）
おにぎり	1個 105円	1個 65円	1個 95円
弁当（最低価格）	1パック 369円	1パック 284円	1パック 370円
いなり寿司	3個 250円	3個 137円	3個 160円
にぎり寿司（最低価 格）	1パック 698円	1パック 598円	1パック 680円
カツ重（丼）	1パック 510円（チルド）	1パック 360円	1パック 285円（小パック）
ポテトサラダ 小	1パック 130円	1パック 122円	1パック 122円
ひじき煮 小	1パック 138円	1パック 122円	1パック 122円